

新藤信夫市政ニュース

平成16年5月

Vol.3

発行:新藤信夫事務所
TEL・FAX
048-647-7713



あいさつ

新藤信夫

皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

日頃より議員活動に温かなご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年4月の市議会議員選挙において、皆様からの応援をいただき初当選させていただいてから議員生活も1年が経過し、皆様からお寄せいただくご期待とご要望に誠心誠意お答えすべく、毎日新しい日であるという気持ちで日々の課題に取り組んでおります。

さいたま市も政令指定都市移行から1年が経過しました。新年度を迎えて、予算も今年度からさいたま市独自で編成、国と折衝し、市議会での議決を経て、4月から執行されています。本年度は政令市としての実力が多くの場面でためされる年であります。

日本では世界でもまれに見る急激な少子高齢化が、産業や国民生活に大きな打撃を与えようとしており、労働力や、税収の減少に備えて強く自立性の高い財政基盤を築くことは、さいたま市の将来世代のために果たすべき責務と考えます。幸いにして本市には、さいたま新都心や大宮周辺の東日本エリア拠点機能の集積を始め、産業や、豊富で質の高い人的資源の集積など多様なポテンシャルがあります。



12月議会において決算決議 賛成討論

今「官から民へ」「国から地方へ」という大きな転換期を迎え、さいたま市はこうした多様な力を結集し、地方の活性化のために、自らが足腰を強化し自立性を高めて、地域の課題は地域で解決できる仕組みを作る必要があると私は考えます。誰もがいつまでも住み続けたい、まちづくりに向けて、さいたま市の生活環境がより一層充実したものとなるよう皆様のご要望に応えてまいります。

さいたま市の平成16年度予算

予算総額 6,146億4,760万円 (▲7.4%)

<予算内訳>

一般会計	3,583億円 (▲7.4%)
(減税補てん償借換分を除く実質予算では3,337億4,660万円 ▲0.1%)	
特別会計	2,057億9,900万円 (▼4.5%)
水道事業	374億7,060万円 (▲1.3%)
病院事業	130億7,800万円 (▼1.6%)

さいたま市の平成16年度一般会計予算



政令指定都市移行後、2年目の一般会計予算は前年度並みの規模を確保することとなりました。三位一体改革により国からの地方交付税が減額された中で、大都市優遇税制などが活用でき、早くも政令市移行の効果が発揮できた予算といえます。

予算の内容は、「新生さいたま市」の創造に向けた諸施策を展開し、特に、「子育てするならさいたま市」を掲げる行政にふさわしく、子育て支援策の充実を図るとともに、市民との協働によるまちづくりを推進する上で、区役所がその機能を発揮できるよう配慮した予算となっています。

しかしながら、将来少子高齢化がさらに進むことを考えると、来年度に向けて経営の視点に立って効率的な行政運営に努め、支出削減につながる本格的な行政改革を始動しなければならない時に来ています。

大宮区関係予算

- ホームレスの自立を助け、住民の良好な生活環境を守る・ホームレス対策事業 1,791千円
- 保育園の増設を促し、一時保育の要望に対応する・民間保育所等施設整備事業 603,620千円
- 自治会集会所等の建設、改修補助・ユニバーシティ施設特別整備事業補助 78,658千円
- 区内美化運動の実施、啓発活動の推進・環境美化推進事業 8,297千円
- 子育て支援事業の充実・子育て支援センターおおみやや整備事業 25,190千円
- 高齢者に対する生きがい対策
 - 長寿慶祝事業 344,785千円
 - 高齢者大学事業 11,318千円
 - 生きがい推進事業 22,378千円
 - 老人クラブ育成事業 33,507千円
 - シルバー人材センター事業 303,981千円
- 単身高齢者の実態把握および充実したサービスの推進
 - 在宅介護支援センター事業 245,183千円
 - 一人暮らし等高齢者事業 258,374千円
 - 在宅食事サービス事業 144,804千円
- 旧中山道の歩道整備の推進・交通安全施設整備事業 1,578,669千円
- 氷川参道の整備推進
 - ワークショップ等運営委託 2,100千円
 - 氷川緑道西通線整備方策検討調査 25,000千円
- 道路照明、カーミラー等の修繕推進・交通安全施設修繕 57,000千円
- 三橋中央通線の整備推進・三橋中央通線街路事業 117,350千円
- 南大通東線の整備推進・南大通東線街路事業 2,629,363千円
- 大宮駅周辺地区歩道空間確保、回遊性のある商業地の形成を図る
 - 大宮駅周辺地区道路整備事業計画書作成費 11,550千円
- 大宮駅西口周辺地区の整備方針基本計画策定
 - 大宮駅西口地区都市施設等整備方策検討調査 8,500千円
- 大宮駅東口都市再生プランの推進
 - 大宮駅東口都市再生プラン推進事業関連調査費 43,500千円
- 大宮駅東口都市再生プランのリーディング事業として事業化の推進を図る
 - 大宮駅東口駅前地区整備推進事業関連調査費 80,000千円
 - 複合交通拠点整備推進事業関連調査費 51,800千円
- 大宮駅西口第四土地区画整理事業の具体的推進
 - 大宮駅西口都市改造事業費 197,134千円

さいたまタワーを誘致し さいたま市の新たなシンボルにしよう!

デジタル情報化社会をふまえて、関東地方一円をカバーする地上デジタル放送構想を昨年暮れに発表。建設ともにさいたま新都心が有力候補地と

NHKと在京民放5局がデジタル放送発信用「新タワー地」として都内候補地として浮上してきました。

現在電波を送信している東京タワー(333m)に代わるものとして高さ600mのタワーを建設しようとするもので、埼玉県とさいたま市は3市合併に貢献された元内閣官房副長官の石原信雄氏を代表に迎え、3月30日に「さいたまタワー実現大連合」を設立し、タワー誘致に向けて官民挙げて全力で行動してゆくことを決めました。600mのタワーが実現すれば、カナダのCNタワー(553m)を抜いて世界一の建造物となります。

さいたまタワーは、世界一の電波塔としての役割ばかりでなく、横浜ランドマークタワーや東京の六本木ヒルズのように観光のシンボルとなります。また、今までにざわいのなかった、さいたま新都心にタワーの持つ集客力によって商業施設の集積がさらに進むとともに、そこから派生する経済効果は大変大きなものになると期待してよいでしょう。

デジタル放送に完全移行する平成23年(2011年)の完成を目指すならば、設計、環境アセスメント、建設等に約7年の時間を要すると考えられることから、今年中に総務省の建設方針と位置の決定が必要となります。

大連合では今後の行動予定として、9月までには目標100万人の署名活動を行い、9月22日にはスーパーアリーナにおいて2万人規模の総決起大会を開催するとともに、PR活動として一般の人にイメージしやすいように、タワー建設予定地でレーザー光線を上空に向けて当てたバーチャルタワーを演出する予定もあります。さらには本格的な模型や鳥瞰図を合同庁舎などに展示します。

我がさいたま市に、市民の誇りとなり、子供たちの夢をふくらませる世界一の新タワー誘致に向かって、実現大連合の一員として活動してまいります。

★写真はイメージです



合併

◆岩槻市を編入合併するとさいたま市はどう変わる?◆

＜都市の規模＞

	さいたま市	岩槻市	合併
面積	168.33km ²	49.16km ²	217.49km ²
人口	1,061,247人	112,087人	1,173,334人
道路舗装率	79.4%	65.5%	76.7%
公園面積	4.8m ² /人	4.9m ² /人	4.8m ² /人
下水道普及率	78.8%	62.8%	77.2%

平成16年3月1日現在

◆もたらす効果◆

＜都市イメージの向上と多彩な都市活動の広がり＞

岩槻は古くから城下町として発展し、歴史的に貴重な文化財が多く、全国的に有名な「岩槻人形」は貴重な地域資源です。

＜交流拠点都市としての期待＞

岩槻市には東北自動車道と国道16号の結節点である岩槻ICがあり、市の規模が大きくなると新たな文化、歴史、自然などの都市資源が加わることにより、厚みのある施策を展開できます。道路等の公共施設の整備、土地利用など広域的な視野でまちづくりが行なわれ政令指定都市としての「格」が上がります。

＜行財政の効率化＞

総務・企画等の管理部門の効率化が図られ、相対的にサービス提供や事業を直接担当する部門を手厚くできます。また、大幅な職員数の削減も可能となります。

＜合併特例債の活用＞

国からの財政支援として、約401億円の特例債の起債が可能となります。



【高速道路見学会】

3月22日(月)と3月30日(火)の両日、首都高速道路公団のご協力により、完成間近となった首都高速埼玉新都心線のトンネル施設と排煙塔の見学会を行い、上小中学校PTAや上小町自治会から総勢約40名が参加し、トンネル内を歩いて見学しました。

【T.Hさん】

先日、高速埼玉新都心線の工事現場を見学する機会に恵まれました。着工以来数年が経ち、いつ完成するのか気になっていたもので、新議員に私的に聞いたことがありました。

月日は経過しましたが、首都高速道路公団に折衝してもらい見学会を実施してもらえたと良かったです。

公団からは、工事事務所の所長さんを始め担当者の皆様も出席いただき、工事の困難さ、特に新幹線の橋脚の地下を通るために東西車線を二階建てにしたり、橋脚を途中で切って補強するなどかなりの難工事が行われていたことが分かりました。

概要説明後、全員がヘルメットを被り、さいたま新都心から新都心西出入口までのトンネル内往復3kmを歩きました。開通してしまうと歩いてじっくり見ることができないところなのでいい経験になりました。

「鉄道博物館」の誘致決まる

旧大宮市が昭和50年から誘致活動を始め、平成12年に「明日の大宮を創る会」が9千人の署名を集めて実現を待望していた、「鉄道博物館」がいよいよ平成19年(2007年)にJR東日本の手によってオープンすることとなりました。

東京神田万世橋にある交通博物館が、大宮区と北区にまたがる大成3・4丁目のJR所有地、ニューシャトルの大成駅に隣接して新幹線の高架下から在来線に挟まれた区域に移転が決まりました。

敷地面積は約42,500m²、展示スペースは現在の2倍の約9,500m²で、敷地内にはミニ列車も走らせる計画となっています。D51型蒸気機関車や新幹線車両等の実物車両約30台も展示され、切符の販売や運転体験シミュレーションコーナーも設けられます。

建設費は123億円、そのうち25億円は旧大宮市時代に積み立てた誘致資金が使われます。

交通量の増加が見込まれることから、周辺の道路整備を急ぐ必要があり、さいたま市ではJR大宮工場北側にある踏切の立体化工事にも急いで着手する計画となりました。

誘致の熱意が実って、子供と鉄道マニアの人気スポットが鉄道のまち大宮のシンボルとして平成19年にオープンします。

【皆様からのご意見】

「市議員は住民の窓口です。」

【H.Sさん】

新議員さんが、市議員に当選されて早いもので1年が経ちました。議会での質問も、自転車に乗ってカメラを持ち歩き問題点を探して質問事項としているようです。ある日可燃物ゴミを出す時のことでした。カラスがゴミ袋を突ついてゴミが散乱していました。そこで、早速対象家庭に集まってもらい新議員も交えて対策を検討し、カラスから生ゴミが見えないようにネットを二重にかけると、この話は5分くらいで終わりました。

これで終わりかと思っていたら、女性の間から「街灯が暗い」、夜間にバスを降りて男性が先に行くのを確認してから、自宅に向かって歩き出すように注意している。街灯を増やしてもらえないように市にお願いしてもらえないかとの話があり、早速「新議員」から要望書をあげてもらうことになりました。

数日後、本人がカメラをもって歩いていました。何をしているのか訪ねると、担当部に要望する資料を作成するための撮影をしていたんだそうです。

「あっ、そうか?」説明するためには「口頭だけではだめなんだ!」と感じた次第です。おかげさまで、一ヶ月後には、街灯が増設され、夜も安心してとれる道路になりました。

さて、次は、三橋中央通線(大宮西口駅前通り)の拡幅工事は、いったいどうなっているのか「新議員」に聞いて見たいところです。

【T.Kさん】

私は、上小町内の三橋中央通線沿いに住んでいますが、3年間も工事が中断し、その間現道もほとんど手入れがされないままになっていて、昨年暮れから路面にヒビが入り、陥没はじめて振動がひどく、建て直して鉄骨3階建てにした自宅の3階にいても、大型のトラックやバスが通るたびに地震が来たように揺れがひどくて悩まされてきました。

相談する先も思い付かずにいましたが、ある方を通じて新議員さんに話をしてもらいましたところ、3月中には、市で舗装の打ち替えをしてくれました。

交差点の東西約60mぐらいの区間の整備でしたが、完了後は振動もほとんど感じられなくなり、快適な生活が戻ってきました。

そもそもこういうことは、住民サービスとして市が積極的に取り組んでほしい問題なのですが、市議員が窓口になってくれることは大変ありがたいことです。

新議員さんには、これからも地域をささえる地元の議員として働いていただきたいと思います。